

日本鉄鋼協会記事

編集委員会

第5回和文会誌分科会 開催日：7月1日。出席者：長島主査，ほか17名。

1. 10件の論文審査報告がなされ，修正依頼1件，掲載決定8件であった。

2. 昭和53年秋の特集号，省エネルギーについて提案されその中間報告がなされた。

第5回欧文会誌分科会 開催日：7月5日。出席者：荒木幹事，ほか9名。

1. 10件の論文につき審査報告がなされ，掲載可3件照会后掲載可5件，修正依頼2件であった。

2. 「鉄と鋼」63年8号より4件，63年12号アブストラクトより2件，及び「鉄と鋼」以外の国内誌より1件の計7件をそれぞれ研究論文として勧誘することとなった。また，第91回（春季）講演大会討論会で発表された2件を研究論文として勧誘，及び渡辺義介賞受賞記念講演の1件を，Special Lectureとして依頼することとなった。

共同研究会

鉄鋼分析部会

第48回鋼中非金属介在物分析分科会 開催日：5月25日。出席者：成田主査，ほか25名。

1. 鋼中空化物の抽出分離定量法に関する研究

(1) Fe-Si-N系試料の共同実験

(2) 実用鋼

2. 炭化物抽出用標準試料共同実験

(1) 自発検討

(2) 共同実験

3. 炭化物抽出法マニュアルの説明

4. 自発研究発表

計測部会

第66回部会 開催日：7月7～8日。出席者：宮崎部会長，ほか139名。

1. 講演

(1) 「棒鋼，線材工場における温度，寸法，疵などの計測について」と題し，住金石山氏より各種計測装置の現況について講演していただいた。

(2) 「信頼性技術の応用に関する実態調査と「題して，東大豊田教授，鋼管細江氏より鉄鋼プラントにおける信頼性技術の応用に関する実態調査結果を報告していただいた。

2. 共通議題として第65回部会で製鉄部会より講演のあった「高炉操業における計測について」および「第64回部会で製鋼部会より講演のあった「最近の連続製造技術と計測について」に代えるべく各々3件ずつの発表があった。

3. 一般研究発表は圧延関係の計測，計測技術の改善

研究を主として，20件もの発表があり，討論も充実し，時間が不足した。

4. 工場見学 住友金属工業(株)製鋼所を見学した。

5. 次回開催は11月に新日鉄・広畑の予定である。

鉄鋼生産設備能力調査本委員会

開催日：6月17日。出席者：小林委員長，ほか23名。

1. 経過報告

事務局より設備能力算定方式作成経過の報告が行なわれた。

2. 算定方式内容説明

各設備部会長より算定方式の概要説明が行なわれ，質疑を行なった。

3. 島田通産省製鉄課長挨拶

算定方式の完成に対して謝意が表された。

以上をもつて今回の設備能力算定方式の見直し改訂作業は完全に終了した。

標準化委員会

ISO鉄鋼部会

第14回SC8分科会 開催日：6月14日。出席者：山南主査，ほか10名。

5月2日から11日にわたり開催されたTC17/SC8/WG1, WG2及びSC8の出席報告がなされた。

(1) SC8/WG1会議

今回は初参加である。特にスローピングフランジビームの質量許容差について検討した。

(2) SC8/WG2会議

鋼構造協会で説明しているため詳細報告は省略した。

(3) SC8会議

a. 丸鋼・寸法は80% JISと合致する。

b. 角鋼・JISとの合致寸法は9サイズだが，太径のものを除き，実績サイズを考慮されればかなり合致する。

c. 平鋼・幅寸法は7サイズ合致したが，厚さ寸法については16mm, 12mmだけで，標準寸法の整理の考え方が異なり，孤立する場合が多かった。

d. 山形鋼・等辺山形鋼，不等辺山形鋼についてはWG3を設けて再検討することになった。

幹事国インド

(4) WG3設置に伴う参加態度

WG3は1978年初(4月)パリーでWG2に連続して開催されるが，日本としてはこれに積極的に参加する。

第16回TC5分科会 開催日：6月17日。出席者：

(1) TC5/WG5への参加が承認された。

(2) TC5/WG5関係，大径側標準外径の日本提案の作成

(3) TC5/WG4関係 塗覆装鋼管 Draft 及び UK proposal に関する日本意見の作成

(4) TC5/WG6 関係 フィッティング関係Draftに関する日本意見の作成

(5) TC5/WG11 関係・WG11 の解散可否に関するアンケートについての審議

(6) フィッティング関係 Draft 類の検討

ISO では Fitting 関係は SC1 の担当分野であるが、国内的には当 TC5 分科会の守備範囲外故、これらのDraft類は、鉄鋼協会→鉄管継手協会のルートで送付し、Comment が必要な場合は→ルートにより処理する。

.....

第 56 回特殊鋼分科会 開催日：6月29日。出席者：石川主査，ほか 15 名。

(1) SC 材規格(案)の適用範囲，種類記号，製造方法，検査，機械的性質についての審議。

(2) H鋼規格の検討

(3) JIS 合金鋼の改訂(標題，適用範囲，種類，機械的性質)について審議した。

(4) 記号体系案のまとめ

.....

機械試験方法分科会

第 1 回幹事会 開催日：6月16日。出席者：川田主査ほか 10 名。

機械試験方法分科会の新しい運営方針と組織(案)について検討した。

他の機関との業務関連で，ステンレス協会を追記する。分科会には使用者側代表を委員としては加えないが，意見を徴取する機会を設ける。

幹事会は当面 ISO 対策の業務まで行う。

当面する活動テーマについては，鉄鋼各社及び関係各位の意見などを広く徴取した上で，テーマを選定し，スケジュール化することになり幹事会で立案することになった。

クリープ委員会

第 9 回高温熱疲労試験分科会 開催日：7月4日。出席者：雑賀主査，ほか 17 名。

1. 一般材料試験結果の中間報告

クリープラプチャー試験について日本鋼管より，高温引張試験について新日鉄よりそれぞれ報告があつた。

2. 高温低サイクル疲労試験の中間報告

高温低サイクル疲労試験結果が報告様式にしたがつて日新，神鋼，京大，三菱金属，大同特鋼，石播，川重お

よび新日鉄の順にそれぞれ報告が行われた。

3. 金材技研における疲れ試験実施について

金沢委員より同所で歪速度の影響を調べる目的で準備を進めているが，伸び計の改良，加熱方法のチェックなど，平行部の歪の測定検討に時間を要しまだ十分なデータがでていないことが述べられた。

特定基礎研究会

スラグの有効利用に関する基礎研究部会

第 2 回部会 開催日：6月29日。出席者：松下部会長，ほか 20 名。

1. 研究発表

大学側委員より，関連既発表研究，現段階までの研究経過，及びこれからの研究の具体的な進め方について説明がなされ，討議を行なつた。

2. 運営方法などの検討

今後の運営の方法及び次回開催予定などに関する討議と事務局よりの研究費などの扱いに関する説明があつた。

鉄鋼基礎共同研究会

鉄鋼の応力腐食割れ部会

第 10 回部会 開催日：7月5日。出席者：久松部会長，ほか 19 名。

1. 委員発表

(1) 304 ステンレス鋼の沸騰塩化マグネシウム溶液中における応力腐食割れのき裂の伝播(阪大・向井委員)
片持バリ式一定モーメント付 SCC 試験を沸騰 42% MgCl₂ (142°C) 溶液中で行ない，き裂伝播速度(da/dt)と応力拡大係数(K)との関係を求めた。

(2) 化学装置におけるオーステナイト系ステンレス鋼の応力腐食割れについて(日揮・山本委員)
日揮社の過去 10 年間における各種損傷事例について報告した。

(3) アメリカ・カナダにおける応力腐食割れ研究について(金材研・金尾委員)

アメリカ・カナダの大学・研究所を訪問し，応力腐食割れ研究を視察した結果を報告。

2. その他

(1) 今後粒界割れ，高温水環境など若干研究範囲を拡大することとした。

(2) 東工大・春山氏に副部会長をお願いすることとした。